

■ 1章 序論	
1-1	放射線安全の展開----- 2
1-2	放射線の発見と放射線・原子力の利用----- 2
1-3	放射線防護の歴史と放射線安全基準の変遷----- 10
1-4	公衆の放射線のリスクについて----- 12
1-5	放射線リスク評価の基礎—広島・長崎の被爆生存者の評価— 12
1-6	放射線安全に関連する国内外の組織----- 15
1章 参考文献----- 20	
■ 2章 放射線防護に用いられる諸量	
2-1	放射線防護の諸量----- 22
2-2	放射線に関する基礎となる単位----- 23
2-3	放射線計測量----- 24
2-4	線量計測量----- 26
2-5	放射線防護量----- 29
2-6	実用量（計測実用量）----- 35
2-7	放射線安全に関係する線量測定，線量評価の実際----- 38
2章 参考文献----- 46	
■ 3章 放射線生物影響	
3-1	放射線生物影響の基礎----- 48
3-2	分子および細胞レベルでの放射線影響----- 53
3-3	確定的影響----- 60
3-4	確率的影響----- 66
3-5	胎児被ばく----- 68
3-6	小児被ばく----- 70
3-7	放射線リスク----- 70
3章 参考文献----- 74	
■ 4章 放射線防護の体系	
4-1	放射線防護の歴史----- 76
4-2	ICRP Publ.60, 1990年勧告による放射線防護の体系化----- 78
4-3	ICRP Publ.103, 2007年勧告による放射線防護の体系化----- 79

4-4	放射線防護の目的	81
4-5	放射線防護の三原則	82
4-6	放射線防護上の重要な概念	84
	4章 参考文献	113
■ 5章 被ばくする個人と被ばくの様態		
5-1	被ばくの様態	116
5-2	被ばくする個人	117
5-3	人の管理と場所（環境）の管理	120
5-4	モニタリングとは何か	121
	5章 参考文献	127
■ 6章 職業被ばくの管理		
6-1	職業被ばく	130
6-2	作業場所（作業環境）の管理	140
	6章 参考文献	148
■ 7章 公衆被ばくの管理		
7-1	公衆被ばく	150
7-2	一般環境の放射線・放射能の監視（モニタリング）	167
	7章 参考文献	175
■ 8章 放射性廃棄物と廃止措置		
8-1	放射性廃棄物に関連する放射線安全	178
8-2	原子力施設の廃止措置	205
	8章 参考文献	223
■ 9章 環境の放射線防護		
9-1	環境問題の国際的な動き	226
9-2	環境の放射線防護に関連する国際的な動き	226
9-3	ICRPの環境防護の考え方の変遷	229
9-4	ヒト以外の生物に対する環境防護の原則	230
9-5	ヒト以外の生物における放射線の生物学的影響	231
9-6	ヒト以外の生物種への放射線影響評価とその体系的アプローチ	233
9-7	今後の課題	236
	9章 参考文献	237
■ 10章 放射線障害防止法		
10-1	国内法と国際基準	240
10-2	放射線安全のための国内法の制定経緯	240

10-3	現行の放射線安全にかかわる国内法	241
10-4	放射線障害防止法	242
10-5	放射線安全規制の新しい動き	264
	10章 参考文献	264

索引	265
----	-----